

第9回 日本レーザーリプロダクション学会

2014.03.09、愛媛

LLL Tを施行し妊娠卒業した患者についての考察

田村有希 伊藤啓二郎 中岡義晴 森本義晴

IVF なんばクリニック

(目的)

現在、当院で不妊治療の補助治療として LLLT を実施している患者は、反復不成功例が多く、平均年齢も高い傾向があり、体外受精を実施しても低い妊娠率しか期待できないグループが対象となっている。今回われわれは LLLT の治療成果を確認するため、LLL T 未実施で妊娠した群と実施して妊娠した群との比較を行なったので報告する。

(対象と方法)

2012年4月～2013年7月までにレーザーを毎週1回30分施行して妊娠卒業した患者（レーザー群）と、2013年5月にレーザー治療実施なしで妊娠卒業した患者（無治療群）を、両群の年齢と当院初診から卒業までの通院期間を比較検討した。

LLL T は日本医用レーザー研究所製 OhLaser - HT2001 を用いて頸部マッサージ、また軽いストレッチを併用しながら頸部2ヶ所を照射し、安静状態で腹部4箇所照射をする方法で施行した。

(結果)

レーザー群は14名、無治療群は57名であった。また、レーザー群の平均治療回数は 10.9 ± 6.1 回となっていた。レーザー群と無治療群の年齢は、 38.6 ± 3.8 v.s. 36.8 ± 4.4 歳とレーザー群が高い傾向がみられたが有意差はみられなかった。また当院初診から卒業までの期間は、 22.2 ± 15.9 v.s. 10.8 ± 9.7 ヶ月でレーザー群が有意に長くなっていた ($p < 0.01$)。

(考察)

今回の検討では初診から卒業までの通院期間についてレーザー群が有意に長くなっていることが確認された。長期の不妊治療後に補助治療としてレーザー治療を開始する患者さんが多い当院の特徴といえるかもしれない。今後は不妊治療開始と同時期の早期からのレーザー治療開始が卒業までの期間を短縮できるかどうか検討が必要である。